

宗教的ケアにおける対面性の効果 —祈りは時空を超えるのか—

[1] 組織

代表者：徳増 平
(東北大学大学院文学研究科)

対応者：杉浦 元亮
(東北大学加齢医学研究所)

研究費：物件費 10 万円

[2] 研究経過

現在、通常の医学的なアプローチだけでは対応できない、魂の痛みとも言うべきスピリチュアルペインの緩和についての研究が増えてきている。しかしながら、それらの研究の多くは定性的であり、また個別性が強いいため、より一般的なケアについての視点が不足している。

そこで本研究では一般大学生を対象に、オンラインで、宗教的ケアの一つである経文聴取(僧侶の読経を聴くこと)を実施し、介入前後の心理学的変化を測定し、宗教的ケアが実際に何らかの効果を持つのかどうかについて定量的な評価を行うことを目的とした。また、代表者の先行研究ではすでにオンラインでの経文聴取による不安低減効果などは明らかになっていたが、この減少効果がどのような要因に左右されるかについては未だ不明な点が多い。そこで本研究では視覚的な情報が読経の効果に影響するのかを調べるために、以下に示す条件で実験を行った。

本研究では代表者がすでに行っていた研究を発展させる形で展開するが、その際対応者である杉浦教授の協力の元、実験を構成した。

実験概要としては、まず参加者として東北大学に通う学生をポスターにより広く募集した。

参加者には実験当日までにオンライン会議ツールである ZOOM の URL が提示されていた。

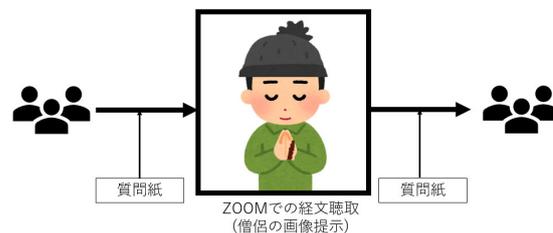
実験当日、参加者は所定の時間に ZOOM にアクセスし、最初に実験についての説明を聞いた後、質問紙への回答を求められた。質問紙は Google Forms を用いて回答を収集した。質問項目は、年齢、性別、学年、信仰している宗教の有無、信仰している場合はその宗教、STAI 不安尺度の中の状態不安、POMS2、スピリチュアリティ認知尺度、である。

回答終了後、オンラインでの経文聴取を実施した(図 1)。読経を行うのは 40 代の男性僧侶であるが、法衣は着用せず、私服で行った。また、剃髪した頭部を隠すために帽子も着用している。ただし、読経の開始の際、数珠や経本、鈴は所持していた。読経を開始する前に、僧侶から今から読経を行うことをアナウンスされた。用いられた経文は『観音経』の散文箇所であり、読経時間は約 10 分であった。読経終了後、僧侶は参加者の今後について祈願し、退出した。

退出後、再び質問紙回答を実施した。質問項目は、状態不安、POMS2、スピリチュアリティ認知尺度、自由記述の感想であった。

2 回目の回答終了を確認した後、実験を終了した。

図 1 実験概要



[3] 成果

(3-1) 研究成果

本年度では、以下に示す研究結果を得た。

状態不安に関しては、介入前後で有意に不安が減少していた。これは代表者が以前行った実験と同様の結果であり、僧侶による経文聴取は姿形が僧侶ではなかったとしても不安低減効果を持つことが示唆された。

POMS2 の内、緊張 - 不安に関しては、こちらも有意に減少していた。この結果も、経文聴取が不安を低下させることを示している。

活気 - 活力に関する項目も減少していた。これは上記の通り不安が減少したことにより、リラックスしたためだと考えられる。

スピリチュアリティ認知尺度については「現実の因果関係解釈」「輪廻」の項目に変化が見られた。この

結果は、経文聴取が参加者のスピリチュアリティに対して影響を与えるが、そのうち特に現実に対しての解釈性や、輪廻といった仏教的価値観に対して強く作用することを示している。

最後に、活気 - 活力の変化量と、「現実の因果関係解釈」の変化量には相関が見られた。このことは、経文聴取がスピリチュアリティに影響したことで、その結果として心理学的変化が生じたことを示しているのかもしれない。

(3-2) 波及効果と発展性など

本研究の結果は、宗教的ケアの拡大可能性、応用可能性を示している。

従来の宗教的ケアは場所や条件が限定されていたため、一般社会への適用が難しいという難点が存在した。しかし本研究ではオンラインという従来の宗教のフィールドにはなかった分野で、私服の僧侶というこれもまた一般的ではない条件であったにもかかわらず、不安低減効果という有益な効果が得られた。このことは、例えば臨床宗教師などが、終末期医療現場で、死に苦しむ患者などに対してある種の癒やしを提供することが可能となることを示している。

[4] 成果資料

- 1: 徳増平・山崎洋史・谷山洋三「スピリチュアリティの変化とスピリチュアルペイン減少の相関について」『論集』50号, 2024 (印刷中)
- 2: 徳増平『神経細胞仮説によるスピリチュアルケアの新理解 -心理実験による実証-』東北大学大学院文学研究科博士学位論文、2024年7月18日公開 (東北大学機関リポジトリ TOUR)
<https://hdl.handle.net/10097/0002001890>